

日本の科学技術を**変**える

“**研究開発**  
**マネージャー**”  
(仮称)

～第一期 募集開始～

# “研究開発マネージャー” (仮称) とは

科学技術の

「イノベーション政策」と「研究現場」を繋ぐ

(イノベーションを目指す戦略)

高度な専門人材

(プロデューサー的人材)

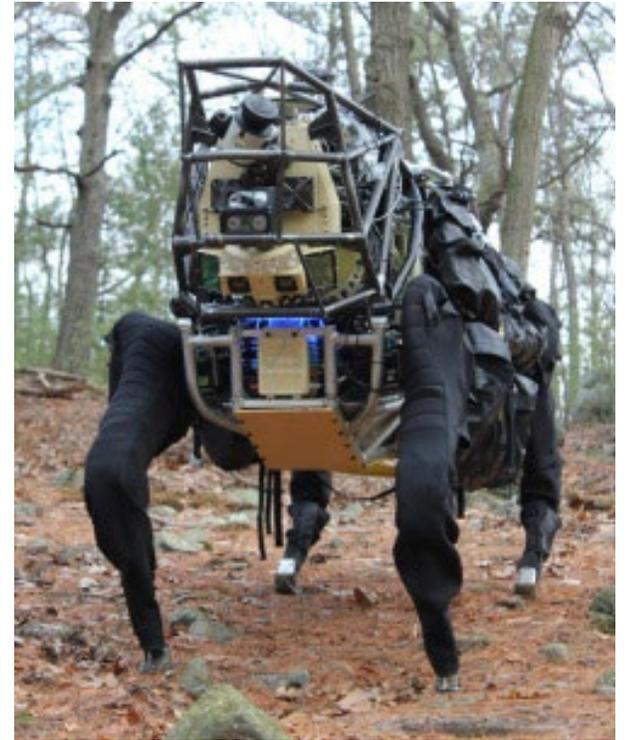
■優れた研究シーズや研究者の「目利き」

■早期からイノベーションの視点を携えて研究者と協働

- ・分野・組織を超えた研究構想立案
- ・独創的な研究活動全体のマネジメント
- ・成果活用の戦略的实施

# イノベーションを次々起こす米国での成功例

- インターネット
- GPS
- ロボット掃除機 「ルンバ」
- 四脚荷物運搬ロボット

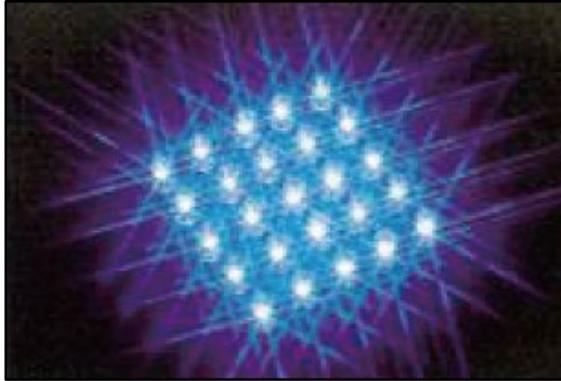


米国では【プログラママネージャー (PM)】の存在が大

波及効果の大きい研究課題を見出し、研究開発プロジェクトを企画立案。  
成果の創出に向け関係者の調整やプログラム推進や有望な成果の管理を  
主導的に実施するプロデューサー的人材。

# 日本でも少数だが成功の実績

～事例①～



## 青色LED

JST職員が 早期に企業連携を説得  
(石田秋生係長(当時)) → 日本での実用化に成功

- 1985年、研究の意義をいち早く見出す
- 「研究に集中し他に時間をとられたくない」 赤崎教授を訪問
- 産学連携によるGaN青色発光ダイオード開発の必要性を粘り強く説く



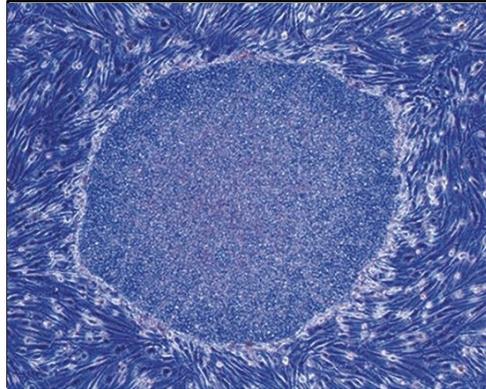
石田秋生



これをきっかけに、豊田合成との産学連携プロジェクトが立ち上がり、後にノーベル賞を受賞する青色LEDの実用化に向けた取り組みが開始。

# 日本でも少数だが成功の実績

～事例②～



## iPS細胞

JST職員が ALL JAPANの研究体制構築に動く

石井哲也 → 山中教授は研究に専念、国際競争をリード  
課長代理(当時)

©京都大学教授 山中伸弥

・ ヒトiPS細胞樹立後、**多忙**を極めた山中教授

→ 機を逃さずJSTが研究をマネジメントできる職員を  
**長期派遣**



石井哲也

**右腕としてセンター立上げに貢献、滞っていた研究支援を担当。**

(研究費獲得、ルール策定・学外連携、論文相談等)

iPS細胞研究所 (CiRA) として世界に先駆け臨床応用へ発展。

# 研究スタイルの変化

## 従来の日本型の研究開発モデル

基礎研究から実用化まで、長ければ数十年をかけてリニアに進展

(例) : 研究代表者(PI)主導の研究、クローズ型中心の産学連携



## 近年における「新しい枠組み」の必要性

“基礎研究の進展／成果の社会展開”が極めて近接

(例) : 課題解決型・バックキャスト型の研究開発、産学共創によるオープンイノベーション

→研究を常にイノベーションの視点から見つめる  
「パートナー」の必要性

「イノベーション政策」と「研究現場」を繋ぐプロデューサー

〔“研究開発マネージャー”  
(仮称)〕

# 今、日本がなすべきこと

ImPACT, MOONSHOTなどの事業は、米国のPM制度を参考に推進。  
しかし、日本ではまだまだ先端科学技術をプロデュースする人材が不足。

JSTが

「イノベーション政策（イノベーションを目指す戦略）」と  
「研究現場」を繋ぐプロデューサー的人材の  
育成・輩出を始動

研究開発成果の最大化に寄与

# なぜJSTがやるのか

**JSTの目的** 研究成果の優れた芽を社会に役立っよう伸ばす



知的好奇心／学術研究

0～1



基礎から産学連携まで

1～10

イノベーションへの分岐点



民間、その他  
研究開発成果の社会実装を促進

10～100

実用化

(今回配属が想定されるプログラムの例)

CREST



ERATO



創発的研究支援事業  
Fusion Oriented REsearch for disruptive Science and Technology



# JST就任時に表明した3つのポイント

- ① ファンディングの強化
- ② シンクタンク機能の活性化
- ③ 「イノベーション政策」と「研究現場」を繋ぐ  
プロフェッショナルの必要性



JSTの職員が、政策に見合った  
プロジェクトメイキングをできる日本に

# 日本の科学技術を牽引するプロデューサー

## “研究開発マネージャー”<sub>(仮称)</sub>に向けた任期制職員第一期募集

### 今回募集する職種の魅力

■ **ファンディング関連部門（最先端研究の最前線支援）に勤務**します。

- ・ 第一線の研究者と力を合わせて取り組んでいただきます
- ・ 世の中を変えるイノベーション創出に貢献できる仕事です

■ **任期制職員から定年制職員への道**※があります。

登用後は・・・

- ・ 複数の部門で経験を積むことができます。
- ・ 外部での活躍の幅が広がります。

(将来、大学や研究機関への派遣・人事交流等も検討中)

■ **本職種のための新たな処遇**を用意します（詳細裏面）

※当初は任期制職員（研究開発マネジメント人材（仮称））としての採用となります。  
(2024年度に登用試験あり)

# 募集要項(11月17日より応募受付中)

## 募集タイトル

JSTのファンディング事業推進を担う常勤職員

(研究開発マネジメント人材(仮称)、任期制職員)の募集

- ・本募集による採用者は、定年制職員への登用制度(新設)の対象となります。  
(2024年度に登用試験あり)

## 業務概要

JSTのファンディング事業において日本の科学技術イノベーション創出に貢献するための研究開発マネジメント業務を担当。

- ・「CREST」「さきがけ」「ERATO」「未来社会創造事業」「ムーンショット型研究開発事業」「創発的研究支援事業」等に携わります。
- ・プログラムオフィサー等や研究者と協働して業務を推進し、研究開発成果の最大化を追求する仕事です。配属先は、ファンディング事業関連部門

## 処遇

年収見込み：600万円以上(みなし残業手当、期末手当含む)

※期末手当(賞与)：6月、12月に支給

- ・月額：39万円以上  
(みなし残業手当を除く月額) 32万円以上  
(みなし残業手当(30時間相当分) 7万円以上)
- ・別途、超過勤務手当(みなし残業相当時間超過分)、通勤手当を加算支給
- ・年俸は、職務経験等を考慮の上、決定

日本における  
イノベーション創出のしくみづくりに  
大きな一石を投じる **JST**の新たな挑戦に  
ぜひ皆さまのご協力をお願いします。